

しいーぶん

● 素敵なパートナーになるために ●

特集

第3号

平成14(2002)年3月

家庭におけるジェンダー



特集

家庭における ジェンダー

下の絵は、ある家庭の光景です。この絵をご覧になってあなたはご想像できますか？この絵にはジェンダー（女らしさ、男らしさといった社会的・文化的につくられた合理的根拠のない性別）が4つ潜んでいます。その4つのジェンダーを探してみてください。解答は最後のページにあります。

ジェンダーをみつけてね！



ジェンダーについて考えるために

「男は仕事、女は家庭」という言葉があります。このように男性であるか女性であるかによって役割を固定する性別役割分担は、長い歴史の中で作られてきました。しかし、「女だから」「男だから」という理由だけで、自分のしたいことができなったり、特定の仕事や役割が押しつけられるとしたら...

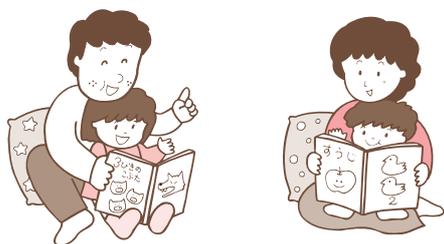
また、ジェンダーが男女差別の原因にもつながっています。大切なことは、性別でなく個性です。対等なパートナーとして女性と男性、お互いに向き合ってコミュニケーションをとることから始めましょう。

どうしていますか？ 家事、子育て、介護

ひと 男女の声

H.Nさん（女性・ヘルパー・48歳）

私は働いていますが、夫からの家事の手伝いや子育て参加は一切なし。両親の介護の時、車に乗せて病院へ行く程度でした。



M.Tさん（男性・会社員・59歳）

妻は専業主婦なので、家事は妻に任せています。以前、妻に頼まれて皿洗いをしたのですが、妻には自分のやり方があるらしく、その通りに洗ってなかったので文句を言ってきました。文句を言われるぐらいなら、何もしない方が楽でいい。仕事で疲れて帰ってきて、家事をする気にもならないし……。

Aさん（女性・専業主婦・35歳）

家事はすべて私がしています。3歳の男子がいますが、夫は育児には協力的なので、月2回、子どもを夫に預けてボランティア活動に出かけています。

T.Hさん（男性・教師・47歳）

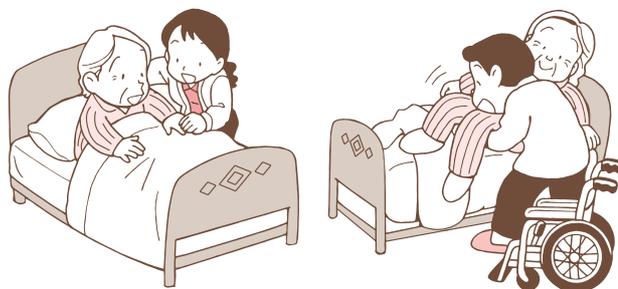
アイロン掛けや洗濯物をたたむことは私がしています。妻も働いている時は、夕食も週2回は作りました。子どもが小さい頃は、私が子どもを保育園に送り、帰りは妻が迎えに行きました。学校の参観日は必ず出席しました。もし、親の介護が必要になった場合、介護したい気持ちはありますが、休暇をとれないのでなかなかできない。妻にたのむしかありません。

O.Kさん（女性・保育士・50歳）

共働きの生活が28年たちました。この頃の夫は、家事を手伝ってくれるというよりは、できる範囲ではあるが家事を当たり前のこととしてやってくれています。いつの間にかこういう夫になってくれました。しかし、家に来客がある時は、私が一人で家事をこなし、夫はなんもしないのはなぜでしょうか？世間の人達がまだ理解されていないからでしょうか。

K.Sさん（男性・自営業・60代前半）

家事や育児は全くしません。当然、女性がするものだという時代に育ちましたからね。未だに自分の衣服がどこにあるのかわかりません。もし、妻に先立たれたら息子夫婦と同居します。息子は家事をしているようですが、息子がお茶を入れているのを見るのはちょっと抵抗がありますね。



K.Iさん（女性・公務員・49歳）

私の家庭は共働きなんですけど、結婚当初から家事を分担していました。食事の後片づけ、ごみ出し、洗濯物干しは夫がしています。食事は、私が毎日作っているのですが、夫も料理ができればいいんだけど…。

K.Yさん（男性・学生・23歳）

独身です。将来、結婚したら家事や育児をすることは当然だと思います。子どもの授業参観は仕事の休みが取れば参加したい。介護も妻ひとりだけでは無理なので、施設などを利用しながら二人でやっていきたいと考えています。

ジェンダーをみつけてね! ~ 解答編 ~

① なぜ、お母さんだけが家事をしているの？

家事は家族みんなに関わることです。また、生活的自立を果たすための基本でもあります。料理などの家事をお母さんだけに任せてしまわないで、男性も子どもも積極的に関わっていきましょう。

② なぜ、お母さんは女の子に『女の子なんだから、お手伝いをしなさい』と言ったの？

家のお手伝いは、何も女の子に限ったことではありません。『女の子なんだから...』という言葉がついているのは「男の子はお手伝いをしなくてもよいが、女の子はお手伝いをするのがあたりまえ」という意識があるからではないでしょうか。家事のトレーニングは男の子にも女の子にも大切です。子どもを性による区別をしないで、男女どちらに対しても能力や個性をのばす機会を同等に与えましょう。



③ なぜ、赤ちゃんが泣いているのにお父さんは新聞を読んでいるの？

育児は女性の役割であると決めつけていないでしょうか。男性も女性も共に育児に参画するべきです。近年、育児に悩み、苦しんでいる母親が増えています。その原因のひとつに育児に理解がない夫の存在が挙げられています。

育児はお母さんだけが責任を持つものではありません、お父さんにもっと積極的な子育てが望まれます。

④ なぜ、女の子は男の子に『男のくせに泣いてはだめヨ』といったの？

この言葉は「男の子は強く、たくましく」という意識から出てくるのではないのでしょうか。周囲から「男らしさ」「女らしさ」をいわれ続けると自分でも気づかないうちに性格や行動が決められてしまいます。ジェンダーによって可能性が狭められないようにするために、ジェンダーに敏感になりましょう。



編集後記

『いーぶん』第3号をお届けします。発行にあたりご協力いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

私たちが目指す男女共同参画社会とは“男女がともに生き生きと暮らせる社会”です。これまでの「女だから」とか「男だから」という枠にとらわれずに、自分のこと、家族のこと、社会のことを考えてみましょう。男女共同参画社会の実現は、一人ひとりの実践がその鍵を握っています。

編集協力者

岡西よし子、滝 琴路、山内登世江
横井秀子、吉田和江

ご意見、ご感想
待っています!

